

知っておきたい、 避難生活のこと

大地震に
備えて



横浜市では、震度6以上の地震が発生する確率は、今後30年間で約80%^{パーセント}といわれています。昨年4月の熊本地震では、横浜市より発生確率が低く想定されていましたが、最大震度7の地震が2度発生しました。

※熊本地震の被災地支援で現地へ派遣された本市職員が撮影

地震発生

港北区では、過去に発生した元禄型地震^{げんろく}※を想定し、震度7の地震が発生した場合の区内の被害状況を予想しています。

11,230棟

強い揺れによる建物
全半壊棟数

6,467棟

火災による建物
焼失棟数

352棟

液状化による建物
全半壊棟数

128人

建物倒壊による
死者数

133人

火災による死者数

53,404人

避難者数

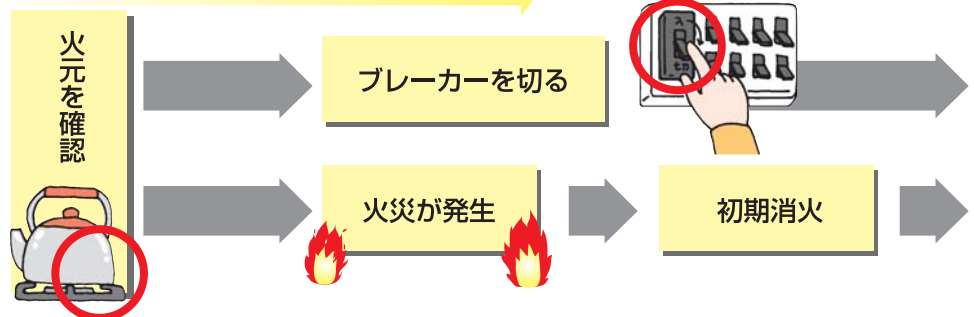
※元禄型地震とは1703年に発生したマグニチュード8.1規模の地震で、関東大震災(1923年)の2倍のエネルギーを発したとされています

自宅にいるときに 地震が起きた場合の対応

- 近くにある物で頭を守る
- 丈夫な机の下などに身を隠す
- 割れたガラスなどでけがをしないようにする



揺れが収まった後の対応



その後の避難生活は?...

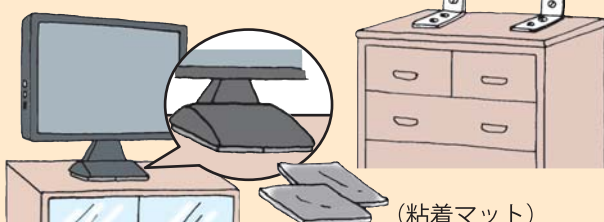
事前対策は？

※阪神・淡路大震災(1995年)では、亡くなった人の9割以上が家具の転倒や自宅の倒壊・火災によるものでした

日頃はどんな対策 をしておくべきなのでしょう



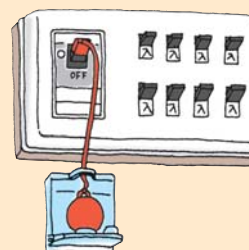
家の中を点検し、家具の転倒防止など
しっかり対策しましょう



(粘着マット)

- ガラスの飛散防止のためのフィルムなどを貼りましょう
- 家具や家電は固定し、配置を工夫しましょう
- 重いものは棚の下に置くなどし、落下に備えましょう

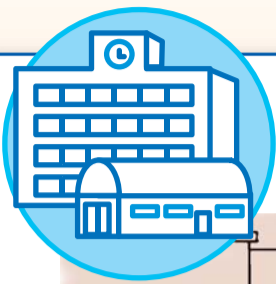
火災の発生を防ぐため、感震ブレーカーを設置しましょう



感震ブレーカーは
揺れを感知し電気を遮断します

※スイッチの入った電気製品が倒れた家具の中にあると、通電を再開したときに火災が発生する恐れがあります

地震後の避難生活



地域防災拠点 への避難



27年度実施の「横浜市民の危機管理アンケート調査」では、**9割の市民が地震に不安を感じています。一方、港北区では地域防災拠点の場所が分からない区民が7割でした。**
日頃から自分が避難する地域防災拠点を調べておきましょう。

港北区 避難場所一覧

検索



地域防災拠点では、高齢者や障害者、乳幼児でもストレスなく避難生活を過ごせるように、年に1回、拠点開設を想定した訓練をしています。**避難所の運営は避難者全員で行うものなので積極的に参加しましょう。**
各拠点の訓練は、例年5月～12月に行っています。



地域防災拠点は、地震発生後、自宅に住めなくなった人が避難するために開設されます。

地域防災拠点の役割

● **安心して避難生活を送ることができます**

各拠点で組織される地域防災拠点運営委員会や、避難者の協力で安全かつ秩序ある避難生活を維持

● **水や食料、生活用品を確保できます**

防災備蓄庫には、飲料水や非常食、紙おむつなどを保管

● **家族・友人などの安否確認ができます**

安否情報や避難情報、被害情報などを収集・伝達

地域防災拠点とペット同行避難

ペットを飼っている人は、ペットを連れて避難することが想定されます。

- 飼い主は、地域防災拠点で決められた飼育場所でルールを厳守して、ペットの適正飼育に努めましょう
- 日頃からペットフードやケージ、トイレシート、鑑札を用意しておきましょう
- 同行避難が困難な場合は、ペットを預かってもらえる親戚や友人をあらかじめ探しておきましょう



在宅避難 のススメ

地域防災拠点では、慣れない共同生活が避難者の負担になることがあります。一人当たりのスペースは狭く、提供できる非常食・生活用品も最低限の備蓄しかありません。**自宅が無事で避難の必要ない人は、在宅避難をしましょう。**

地域防災拠点に届けられる安否情報や食料などは、**地域防災拠点の避難者と在宅避難者**で共有します。

災害が発生しても、安心して自宅で避難生活を送れるように、日頃から飲料水や非常食、生活用品を**最低3日分**は用意しておきましょう。

主な 備蓄品

- 飲料水 (1人当たり3日分で9リットル必要)
- 食料品 (調理が簡単なものを備蓄)
- トイレパック (ホームセンターなどで購入可)

薬やおむつ、生理用品などは使い慣れたものを用意することで、災害時のストレスが軽減できます。また、乳幼児や要介護者などがある場合は、状況に合わせて備蓄品を工夫しましょう。

